

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4492200011		
法人名	医療法人久寿会		
事業所名	グループホームすずらん		
所在地	大分県速見郡日出町大字藤原1691番地1		
自己評価作成日	令和3年4月7日	評価結果市町村受理日	令和3年7月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaijokensaku.jp/44/index.php?action=kouhyou_pref_detail_original_index=true&JigyosyoCd=4492200011-00&PrefCd=44&Yendo=2010&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構		
所在地	大分市上田町三丁目3番4-110号 チュリス古国府巻番館 1F		
訪問調査日	令和3年4月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は比較的災害の少ない場所に立地しており、日当たりも良く、利用者様にとって安全で快適な場所を提供しております。スタッフは20代～60代まで幅広く、明るく和気あいあいとした雰囲気でお世話をさせて頂いております。利用者様の体調面では、病院と連携し、いつでもドクターに相談できるようにしています。また利用者様に季節を感じて頂けるように、毎月行事を計画しており、利用者様とスタッフが一緒に楽しい時間を過ごせるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当施設は別府湾に面した、市中心部の高台に位置しています。窓からの眺望は四季折々の海の様子が利用者の気持ちを和ませています。法人が医療機関であり医療との連携が強みとなっています。利用者のADL現状維持及び改善へと取り組む中でリハビリやレクリエーションを通して、多くの利用者が参加できるよう支援しています。日々の記録の1つとして、介護計画で定めた目標を毎月のカンファレンスで、一人ひとりのサービスが実施できているか評価しており見直しにも繋げています。また、コロナ禍の下でも顔を見たり話しをしたいという家族も多く、オンラインでの面会を可能にしており、利用者・家族の不安感を取り除き、関係継続に繋がっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員及び外来者に見やすい場所に理念の掲示をしている。	法人理念を基に、事業所理念及び目標を作成し、職員会議やモニタリング時に理念の実践について振り返り、反省を行い次に繋げています。利用者一人ひとりを尊重し、真心を込め、安心して穏やかに過ごす家庭的な生活を支援しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルスの関係で今年度は外部との関りが持てなかったが、個人的にご近所の方からの電話で近況を報告している。	地域行事の参加、ボランティアや近隣の方の差し入れ、事業所行事の招待等地域交流に力を入れてきましたが、現在はコロナの影響で交流が難しい状況です。コロナ終息の目安が立てば運営推進会議を通し地域交流を再開する予定です。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の際に、事業所で作成した新聞を配布し、利用者の施設での生活を報告している。行事を通しての利用者の反応や、今後の取り組みも報告している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所での、利用者に対するの取り組みや、業務改善、環境整備等の取り組みに対するの報告を行い、さらに改善出来るようにアドバイスを受けている。	コロナ感染防止の為、運営推進会議は開催できず、各関係者へ事業所の取り組みや近況報告等を文書で送り、意見を頂いています。先月より感染対策を十分に取、会議を再開しています。業務改善の話し合いでは服薬管理についてアドバイスを頂き運営に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営に関して不明なことがあれば連絡を取り、相談している。	役場より広報誌や連絡事項・コロナ関係の情報が随時届き、感染対策に活かしています。また、不明な点等はアドバイスを得ており協力関係を築いています。月1回地域ケア会議が開催されていましたが現在はオンライン研修に変更されています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会で身体拘束を取り上げ、身体拘束となるような行為をを理解し、利用者の尊厳を守るように努めている。また、身体拘束につながりそうな利用者の方には居室の環境整備を行い、4点柵にならないようにしている。	身体拘束廃止及び虐待防止について年2回研修会を開いています。法人全体と各事業所ごとに開催し、DVDを使用したり、職員同志でロールプレイング(役割演技)にて拘束の弊害を正しく確認しています。利用者に対する声掛け(気付き)や職員の心の余裕を持つこと等意見交換がされています。	運営推進会議の時にテーマの1つとして身体拘束廃止の事業所の取り組みを説明されるのも良いと思われます。説明内容・書類作成等職員と一緒にされると職員の再確認にも繋がるので期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常の支援の中で、スピーチロックと捉えられるような声掛けが見られるので、都度指導している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	随時、ご家族や関係者と制度について必要性を話し合いながら支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は項目の確認を行い、理解・納得が出来るように説明し、その後の質問などにもきちんに対応している。契約は主に管理者が行うが、他の職員も大まかに説明出来るように、利用料等の把握はしておくことも必要と思われる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見や要望は、聞き取りを行った職員が全員に周知できるように申し送りに記入している。	家族への情報発信源として、管理者が週1回スマホで家族と連絡を取り、月1回の手紙や写真を送付し、家族の意見を聴き取り運営に反映させています。現在は病院の待合室を借り、短時間ではありますが面会も行われ、家族・利用者の安心に繋がっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する職員の意見や要望は日常の業務の際に話しており、内容によっては定例のミーティング以外でも話し合いを行っている。管理者は上司に報告・相談し、業務改善に取り組んでいる。	管理者も業務に入っており、職員とのコミュニケーションも十分に図られ、意見や要望が積極的に出せる体制にあります。時にはミーティングで話し合った内容を、管理者を通じ上申しており業務改善・環境整備等職員の気付きがケアに反映されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況を定期的に振り返り、年に一回自己評価を行っている。その際一年間の反省や、今後の目標を立ててもらっている。また、個人の悩みや、勤務態度等に関して個人的に面談を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナウイルスの関係で今年度は外部研修の機会が設けられなかったが、ZOOM研修を利用し、業務の合間に受けることができた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルスの関係で外部との交流が持てなかった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	基本情報に目を通し、その方の背景を把握するようにしている。情報をヒントに、利用者へのアプローチの方法を考え、信頼関係を築けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始時に家族の心配事や、要望を聞き取り、安心して預けて頂けるように、また一緒に支援して頂けるような関係を築けるように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを行い、本人や家族のニーズを把握し、プラン作成につなげている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で残存機能を生かし、軽作業を共同で行うようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の要望に対し、なるべく応えられるように検討し、家族と職員が同じ意向で利用者支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの方ともコミュニケーションを取りながら、近況を報告するようにしている。	利用者には地域の方が多く、近所の知人が面会に訪れたり、馴染みの店への買い物や美容院の利用等関係継続に力を入れて来ましたが現在は感染予防の為、外出や対面が困難になっています。家族を通じ友人・知人には近況報告を依頼しています。	長引くコロナ禍の中で、出来ることで利用者に馴染みの関わりを継続する支援(年賀状・手紙等)をしており、今後も変わらぬ支援を期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の関わりに側面的に支援し、孤立しないように心がけている。生活の中で、利用者同士の関りが円滑になるように職員が間に入り、支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退院後の受け入れ先が不安な御家族もいらっしゃるの、病院と連携を取りながら退院後に再びGHでの受け入れができるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	基本情報を把握し、これまでの生活歴を参考に施設での生活になじめるようにしている。利用者からの希望に関しては、可能なことは柔軟に対応するようにしている。	職員は利用者とは1対1の時間や、他者との関わりの中から言葉や表情・行動から思いをくみ取るよう工夫をしています。生活歴や家族からの情報を基に、常に利用者の思いに気付くよう、意識を持って支援に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報に目を通し、利用者の背景を理解し支援するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日個人記録に記入し、いつもと変化があれば、個人記録と申し送りに記入し、周知出来るようにしている。日常の中でもアセスメントを行い、その方の心身に合った対応を心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月個別カンファレンスを行い、現状や問題点を検討し、それらを参考にプランの見直しを行っている。	利用者や家族の意向を聴きながら必要に応じて医師・看護師の意見を取り入れて、日々の暮らしに反映できる丁寧な介護計画を作成しています。3ヶ月に1度のモニタリングで利用者の状態に応じ随時見直しを実施しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを作成しており、日々の状態の把握に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や個々の意向を聞き、可能な限り対応できるように努めている。支援方法で変更があった場合は申し送りを利用し、周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族との協働が主であるが、本人の力が発揮できるように生活の中でのやりがいや生きがいを見つけるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を基に、協力医療機関やそれ以外の専門医と連携を取りながら、適切な医療を受けられるような体制を取っている。	入所時に、利用者・家族の希望を大切に医療機関を選択して頂いています。ほとんどの方がこれまでのかかりつけ医である当法人の医療機関を受診しています。受診には職員が同行し結果を家族に報告し情報の共有に努めています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の観察の中で、変化を発見した場合は病院に報告・相談を行い、指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はアセスメントを情報共有し、その他日常においても、病院関係者と連携を取り、情報交換を行っている。退院時も病院での様子や、施設に戻ってからの留意点を引継ぎ、状態の安定を図るように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に今後の身体状況を見据えた説明を行い、重症化した場合は協力医と連携を取りながら本人の状態に合ったケアを提供できるように体制を整えている。	入所時に重度化した場合や終末期のあり方について説明しています。状態の変化に合わせて本人・家族・事業所・医療機関と連携を取りながら話し合いを重ねチームケアに取り組まれています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に対応が出来るように、緊急時マニュアルを目に入る場所に掲示している。緊急時は管理者と医療機関に連絡し、スムーズに搬送できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回、施設全体で避難訓練、消火訓練を行っている。近年、水害が多く、施設の倒壊を想定したときの非常災害対策計画書を作成している。	年2回法人全体で消防署立ち合いのもと避難訓練を実施しています。隣接する法人の介護老人保健施設が福祉避難所に指定されていることから事業所・地域・行政が協力して災害対策の構築に努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報保護についての勉強会を年に一度行っている。利用者への声掛けの仕方についての指導は、ミーティング及び個人的に行っている。	年度始めの勉強会において法人の個人情報保護規定を再度確認しています。職員一人ひとりが利用者の尊厳と人格の尊重を念頭に、言葉づかいや言葉かけ対応に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のかかわりの中で会話の内容や表現に気を配り、本人の希望を傾聴するように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切にし、職員主体の介護にならないように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の清潔を保ち、好みの服を選択できるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳の準備や片付け等、出来る範囲の協力をさせていただいている。食事を作った際に時々味見をしていただき、アドバイスをもらうこともある。	調理は施設内で行われているので、匂いや音が直接伝わってきます。年2回のバイキングでは利用者全員の希望のメニューが並び喜ばれています。配膳や片付け等利用者と一緒にいき、食に対する嗜好や思いを伺っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量や水分量は毎日記録に残している。御飯ではなくパン食を希望される方には個別に提供している。食事量の低下や、食べ方を観察し、その方に合った食事形態に柔軟に対応するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、口腔内の清潔を保つようにしている。またSTに依頼し、口腔内や嚥下のチェックを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄リズムを把握し、なるべくトイレでの排泄を行えるように支援している。	一人ひとりの排泄パターン・習慣を把握してトイレでの排泄支援に努めています。夜間も覚醒が確認出来たらトイレ誘導を行い気持ちよく過ごせる様に支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を心掛け、簡単な運動を取り入れ、スムーズな排便が行えるようにしている。また主治医に相談し、薬を服用することで排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望や、体調を確認しながら入浴を行っている。	本人の希望を伺い、基本週2回の入浴を行っています。入浴拒否の方には言葉かけや本人が納得する方法で一人ひとりの希望に合わせて入浴が楽しい時間になる様支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	目が離せない方でも休息できるようにソファを利用してくつろいでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局より、内服薬の情報提供をもらい、個人ファイルに貼付し、常に職員が内服薬の把握を出来るようにしている。また、薬のチェック表やボードを使用し、飲み忘れがないようにしている。誤薬防止の為、服薬介助の際は声出し確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活リハビリを取り入れ、残存機能を生かせるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度はコロナウイルスの関係で買い物の支援は出来なかったが、気分転換にドライブを企画することもあった。	コロナ禍の為、外出は困難な状況が続いています。事業所周辺の散歩を行い外気に触れ季節の移ろいを感じ、生き生きと過ごせる様支援しています。車中での紅葉狩り・お花見・受診でのドライブ等気分転換を図っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人がお金を持っているばあいについては、ご本人と家族、職員が十分に話し合い、少額の金額を所持している。基本的には金銭管理者がお預かりし、出納簿に記録している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される利用者にはいつでも電話が出来るように支援している。また、携帯電話の持ち込みも可能としている。面会が禁止の間はテレビ電話を使用し、家族とのかかわりが無くならないようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられるように掲示物を工夫している。定期的に換気を行い、感染症の予防に努めている。温度計と湿度計を設置し、快適な温度で過ごすようにしている。	対面キッチンから、調理の音や匂いが五感に響き家庭的な雰囲気を感じられます。明るく、温度・湿度も配慮が見られ職員との共同制作の季節の飾り物・行事の写真が掲示され居心地よく過ごせる工夫が見られます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで気の合う仲間いつでも会話できるように座席に配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた寝具や家具を持ち込んで頂けるようにしている。	使い慣れた寝具や食器・家族写真や家具等が持ち込まれ、自宅の延長のような居室作りをされ、安心して居心地よく過ごせる様に支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の身体状況に応じて部屋割りを行うが、自分の部屋と認識して頂けるように、また環境の変化で不安にならないようになるべく居室の入れ替えをしないようにしている。		